



昭和34年(1959)に東北初の公立登録博物館として誕生し、総合博物館として親しまれてきましたが、震災で施設は全壊。同じく被害を受けた「海く貝のミュージアム」と合築して新設し、2022年に開館しました。被災資料は全国の専門機関の協力を得て救出し、今も修理作業が継続中です。

常設展示は9つのコーナーに分かれ、陸前高田の自然、歴史、文化に関する資料を収蔵、展示しています。「宿命とともに生きる」では、過去に同市を襲った津波の歴史を振り返りながら、津波記念碑や残された貴重な記録を紹介。津波の経験が、次の津波の際にどう生かされたのか、あるいは生かされなかったのかを解説しています。「二万」奇跡の海三陸」では、三陸の海に面した同市の多様な生物を紹介。海は津波という恐ろしい一面をもちながら、同時に豊かな恵みと文化を育んできた場所であることを伝えています。

「発見の部屋」では、パズルや模型で遊びながら陸前高田の自然や歴史、文化について楽しく学べる。体験グッズやワークシートを使った展示や仕掛けもあり、来館者の「知りたい」意欲を刺激してくれる



約56万点のうち約46万点が救出され、よみがえりつつある資料の様子を、安定化処理や修復技術と共に紹介する「よみがえる博物館」。館内の作業室では国際的にも前例のない、津波被災資料の修復作業を見学できる



魚の王国とよばれる三陸の海を有する陸前高田の山・川・海の生物を、たくさんの写真や標本などで幅広く紹介している「奇跡の海 三陸」。三陸や世界の貝約2000点を展示する「貝たちの部屋」も併せて見よう

陸前高田市

●りくぜんたかたし

陸前高田市立博物館

●りくぜんたかたしりつはくぶつかん

三陸の海の厳しさと優しさを同時に学べる

陸前高田市の被害状況



最大震度 6弱

浸水面積 13km²

最大浸水深 17.6m



全壊 3,807棟

半壊 240棟

一部損壊 3,988棟



死者 1,559人注①

行方不明者 202人

負傷者 不明

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.1下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

展示

交流拠点

施設ガイド

車椅子OK

※要予約

施設DATA

●りくぜんたかたしりつはくぶつかん

陸前高田市立博物館

☎ 0192-54-4224 MAP P114D1

📍 陸前高田市高田町並杉300-1

🚗 三陸沿岸道路陸前高田ICから車で5分

🕒 9～17時(最終入館は16時30分)

🌞 月曜(祝日の場合は翌平日)

🆓 無料

🅇 施設向かいの公共駐車場を利用

<https://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/soshiki/kanrika/hakubutsukan>



考えてみよう

Q1 同館には「博物館資料を持ち去らないで下さい。高田の自然、歴史、文化を復元する大事な宝です。市教委」と書かれた書き置きが展示されています。これは震災当時誰かによって書かれ、被災した博物館のなかに残されていました。現在はその書き置きをどこに、どういう思いを込めて、展示しているのでしょうか?

A1 常設展示室の入口に展示している。震災当時、職員たちはこの書き置きから大きな勇気もらい、博物館再生の象徴だと考えた。

注① 出典：陸前高田市東日本大震災検証報告書、平成26年7月、陸前高田市
注② 出典：陸前高田市による調査、令和4年12月末